

マデュラマイシンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 令和3年3月10日～令和3年4月8日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通
4. 頂いた意見・情報及び食品安全委員会の回答

	頂いた意見・情報	食品安全委員会の回答
1	<p>畜産物を通してヒトに摂取される試算量が、一日限量を超えていないということで、問題なしと結論づけられています。</p> <p>確かに、計算上はそうでしょうし、推定摂取量も微々たるものなので、個々の成分の摂取量という意味では問題ないかもしれません。</p> <p>ただ、認められている医薬品や農薬、添加物あるいは遺伝子組み換え品の種類が半端なく、その複合影響や、薬まみれの家畜由来の畜産物を摂ることには抵抗を感じます。自然農法でのびのび育った家畜と、薬や人工物まみれで、狭いところで、効率重視で育てられた家畜のどちらが健康的か（どちらの畜産物が、より安全か）、言うまでもないと思いますが、今回の審議結果のように「規定に基づいて粛々と」試算・審議するだけでよいのでしょうか？</p>	<p>食品安全委員会は、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に食品に含まれる可能性のある危害要因が人の健康に与える影響について食品健康影響評価を行っています。</p> <p>本成分については、「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」（令和2年5月18日動物用医薬品専門調査会及び令和2年6月15日肥料・飼料等専門調査会決定）に基づき評価を行った結果、本成分が現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、本成分の食品を介したヒトの安全性は担保されていると考えます。</p>

※頂いたものをそのまま掲載しています。